

北海道港湾空港建設協会

会報

令和元年 9月

北のみなと

No.98

平成28年 4月撮影「写真提供：北海道開発局 函館開発建設部」



— 目 次 —

就任挨拶 (北海道開発局 港湾空港部長 魚住 聡) 1

Report

日本港湾空港建設協会連合会 第36回通常総会開催 3

受賞

令和元年度 国土交通省建設事業関係事業者大臣表彰
(萩原建設工業(株) 萩原 一利) 4

令和元年度 「海の日」 海事関係功労者大臣表彰
(藤建設(株) 藤田 幸洋) 5

令和元年度 漁港漁場関係事業優良請負者表彰受賞者
(水産庁長官表彰 真壁建設(株) 山下 洋司、萩原建設工業(株) 萩原 一利) ... 6

令和元年度 北海道開発局優良工事等の表彰 7

令和元年度 北海道開発局港湾空港関係功労者表彰
(榊西村組 西村 幸浩) 9

令和元年度 各協会の表彰に関する記事 10
・(公社) 日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞
・(公社) 日本港湾空港建設協会連合会会長賞表彰 港湾功労者賞

各種記事

我が社の安全衛生管理 (豊浦建設工業(株) 土木部長 工藤 真一) 14

私の趣味『私の中国物語』
(株不動テトラ 森 信幸) 16

令和元年度 岩内港大規模地震・津波総合防災訓練が開催される ... 20

Topics

大型客船寄港
小樽港、今年最初の豪華客船ウエステルダム初寄港 21

室蘭港に本年度最後となる大型客船「オーシャン・ドリーム」が寄港 22

函館港若松地区にクルーズ船初寄港 23

各港で舟漕ぎ大会、ボートレース開催
(釧路、苫小牧、函館、室蘭、稚内) 24

Information

業界だより・広報委員会だより 29



福島漁港

◎福島漁港の役割

- ・コンブ養殖、ウニ漁業など沿岸漁業の生産拠点
- ・津軽海峡で操業するイカ釣り外来船の基地港

◎主な整備方針

- ・イカ釣り漁業やマグロはえ縄漁業などの陸揚げ、出荷作業時における衛生管理対策の強化を図るため、屋根付き岸壁等の整備を行う。
- ・大規模災害発生後の緊急物資輸送機能の確保及び水産業の早期再開のため、耐震強化岸壁に接続する道路及び岸壁背後用地の液状化対策を行う。
- ・港内静穏度の確保、越波防止を図るため、突堤及び護岸の整備を行うとともに、養殖コンブの品質確保や就労環境改善を図るため、船揚場の屋根掛け、岸壁の低天端化を行う。

就任挨拶



北海道開発局 港湾空港部長 魚住 聡

はじめに

国土交通省 北海道開発局 港湾空港部長に7月9日に着任しました。

北海道港湾空港建設協会並びに会員の皆様には、日頃より北海道における港湾・空港行政の推進にあたり、多大なるご支援とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

北海道は食糧自給率が200%と我が国の食糧供給基地になっているとともに、四季を通して魅力ある観光資源を有し、年間約300万人もの外国人観光客が訪れる世界水準の観光地として大きなポテンシャルを有している地域です。

北海道開発局港湾空港部としては、平成28年3月に閣議決定された「第8期北海道総合開発計画」に基づいて、農林水産業、観光等の多面的な機能を持つ「生産空間」を支え、「世界水準の価値創造空間」を目指し、計画の目標である「人が輝く社会」、「世界に目を向けた産業」、「強靱で持続可能な国土」の実現のために取り組んでまいります。

港湾の取り組み

港湾については、「基幹物流」、「食」、「観光」、「エネ

ルギー」、「国土強靱化」の5分野について重点的に取り組んでおります。

「基幹物流」について、苫小牧港では、道内5年ぶりの新規事業として、港内の公共埠頭の混雑緩和や物流効率化に向けた「西港区真古舞地区国際物流ターミナル整備事業」に着手します。また、同港では、RO-RO船等の北海道と本州を結ぶ物流機能の強化や安定性の確保を図るため、複合一貫輸送ターミナルの整備を引き続き推進してまいります。

「食」について、国際バルク戦略港湾・釧路港において、2018年11月に、待望となる水深14m岸壁を擁する国際物流ターミナルが完成し、試運転期間を経て、2019年3月より供用（民間埠頭運営）を開始しました。新たな飼料工場の建設やサイロ増設などの民間投資も進んでおり、釧路港が北日本の飼料用穀物の輸入拠点として、大型船の受入れによる海上輸送コストの削減と酪農業の更なる発展に貢献することを期待しています。

また、北海道の農水産物の輸出促進については、2017年5月に道内の6港が連携して策定した「農水産物輸出促進計画」に基づき、水産物の水揚げ時の品質・衛生管理機能の強化、輸出競争力の強化を推進しています。本年度は、紋別港において屋根付き岸壁の暫定供用、石狩湾新港において管理者が進める小口貨物円滑化支援施設

等の完成を予定しています。引き続き、北海道総合開発計画の目標である農水産品輸出額1,500億円の達成に向けて取り組んでまいります。

この他、「北海道国際輸送プラットフォーム（HOP）推進協議会」を発展的に解消し、2017年度に設立された「北海道国際流通機構（HIDO）」と北海道開発局は連携協定を締結しており、道産品の輸出拡大に向け、小口混載輸送の実施等の取り組みを進めてまいります。なお、昨年秋には、北海道胆振東部地震からの復興支援や輸出ルート開拓のため、台湾への被災地の農産物の輸出を行ったところです。

「エネルギー」について、北海道・東北地域は一般海域の洋上風力発電の導入適地として高いポテンシャルを有しております。昨年度の再エネ海域利用法の策定を踏まえ、再生可能エネルギーの導入拡大や国民負担の抑制に資する発電設備の組立てや維持管理の効率化に向けた基地港機能の強化に向けた行政側の適切な支援を行うことが重要と考えます。

「観光」については、2020年に訪日クルーズ旅客を500万人とする政府目標に向けて、2018年秋に暫定供用した函館港若松地区クルーズ船岸壁の効果もあり、2019年は道内全体で35%増の136回の寄港が予定されております。函館港、小樽港の供用に向け、大型クルーズ船の受入環境の整備を推進し、クルーズ振興を通じたインバウンド観光の拡大、地域活性化を図ります。

また、2019年5月1日に釧路みなとオアシスが登録されたことで、道内で登録されたみなとオアシスは11港となりました。地域住民の交流や観光の振興を通じた「みなと」を核としたまちづくりの促進や、急増する訪日クルーズ旅客船の受入環境の提供、災害発生時における支援機能として役割を果たしております。

加えて、「国土強靱化」に関して、近年、頻発・激甚化する気象災害や切迫する巨大地震等から国民の生命と財産を守るため、防災・減災、国土強靱化の対策を進め、岸壁の耐震対策や防波堤の高潮・高波対策等の早期効果発現を目指します。

さらに、離島にあっては、定期フェリー航路の安定化、物流機能の確保を図る為、港内の静穏度確保や老朽化対策等の港湾施設の整備を推進します。

このほか、アジアと欧州を結ぶ新たな物流ルートとし

て北極海航路の商用利用に向けた取り組みが各方面で行われています。北海道開発局では、JAXA等と連携し、人工衛星から取得されるAISデータを活用し、北極海及びその周辺海域における最新の航行実態を把握する取り組みを進めています。

空港の取り組み

空港については、政府の訪日外国人旅行者の目標2020年4,000万人、2030年6,000万人に向けた航空需要の急速な拡大に対応し、北海道全体の産業及び観光の発展や各地域の活性化を図ることを目的とした道内7空港のコンセッション方式によるバンドリング（複数空港の一体運営）に向けた手続きが現在進行中であり、7月3日には北海道エアポートグループ（代表企業：北海道空港株式会社）が優先交渉権者として選定されました。

これらの空港のうち、特に新千歳空港においては旺盛な国内需要に加え、外国人旅客の急増により空港の利用者は平成27年に2,000万人を超え、我が国5番目の規模を誇る拠点空港となっており、国際線旅客数は平成30年には約370万人となり、7年連続して過去最高の旅客数を更新しております。そこで、急速に拡大する国際線需要に対応するため「国際線ターミナル地域再編事業」として、既存国際線エプロンに給油施設を備えたエプロンを3スポット増設するとともに、空港の南側に誘導路を新設するなどの整備を、本年度末の供用を目指して進めております。

また、大規模地震時における航空機重大事故や緊急輸送の停滞等を防ぐため、引き続き滑走路等基本施設直下の構造物耐震化に取り組みとともに、滑走路等の老朽化対策や滑走路端安全区域の調査・整備を進めてまいります。

さらに、冬期の安定運航を図るために、滑走路除雪時間の短縮や航空機の地上走行の動線確保のために、新たな平行誘導路や末端取付誘導路の整備（複線化事業）に取り組めます。

このほか、稚内、釧路、函館、丘珠の各空港においても、滑走路端安全区域の整備を進めてまいります。

最後になりますが、これからも北海道の港湾・空港の整備を着実に進めてまいりますので、貴協会並びに会員の皆様の一層のご支援をお願いいたします。

日本港湾空港建設協会連合会 第36回通常総会開催

日本港湾空港建設協会連合会第36回通常総会は、令和元年5月8日（水）東京都の明治記念館で全国から役員、代議員が出席し、盛会裡に開催されました。林田会長の挨拶に続き、国土交通省下司港湾局長の来賓祝辞があり、議事に移りました。

議案は、平成30年度事業報告及び収支決算、令和元年度事業計画及び収支予算（案）が提出・承認されました。総会后、来賓、会員等が出席されて情報交換会を開催しました。

令和元年度事業計画は以下のとおりです。



令和元年度 事業計画

1 会報の発行

港湾空港関係予算及び港湾空港関係の諸情報並びに会員の意見・要望等を掲載した会報を4回/年発行し、会員相互の情報交換を行う。

2 研修講習会等の開催

港湾空港建設事業の社会的地位の確立と技術の開発向上を目的とした講習会及び見学会を実施する。講習会の開催は春、秋の2回中堅技術者を対象に東地区、西地区において実施し、11月中旬に経営者及び幹部社員を対象に経営者セミナーを東京都において開催する。また、「独占禁止法とコンプライアンスに関する講習会」を（一社）日本埋立浚渫協会と共催で行う。その他、ミニ研修会（行政）を協会会議室で随時開催する。



3 要望及び意見等の発信

- ①港湾空港関係予算及び港湾空港事業に関わる諸課題について、関係方面及び関係機関に対して要望又は意見交換を実施する。
- ②港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する要望や意見交換を、各地区連合会と共同して関係機関に対して実施する。
- ③都道府県協会が行う港湾空港建設に係る当面の諸課題に関する関係機関との要望や意見交換を支援、共同して実施する。

4 調査研究

- ①港湾空港建設業の発展に関する調査研究及び資料の収集等を行う。
- ②地区連合会技術委員会の活動経費に対して補助を行う。
- ③契約、設計、積算に関する調査研究。
- ④労働、安全、税制に関する調査研究。
- ⑤建設行政に関わる調査研究。

5 港湾及び空港の整備・振興に関する広報・啓発活動

- ①港湾及び空港の整備・振興に関し、広く社会一般に理解を得るための広報・啓発活動を行う。
- ②港湾及び空港の整備・振興の必要性を広く国政の場に反映するため、関係国会議員等の理解を得るための活動を展開する。

令和元年度 国土交通省建設事業関係事業等 関係者大臣表彰

国土交通省は、7月10日、令和元年度建設事業等大臣表彰の表彰式を行いました。

道内からは2名が選出され、当協会から萩原建設工業(株)の萩原一利代表取締役社長が受賞されました。

表彰は長年にわたり、建設事業等の発展に貢献した建設業関係者や行政関係者を顕彰することを目的に長年実施しているものです。

萩原一利社長は、帯広建設業協会の会長を務め、地方建設業界の寄与とともに、北海道建設業協会の副会長として本道建設業の発展に貢献しました。



萩原建設工業(株)
代表取締役社長

萩原 一利 氏

生年月 昭和26年3月

団体歴

北海道建設業協会 副会長
 帯広建設業協会 会長
 帯広林業土木協会 会長
 日本林業土木連合協会 理事
 北海道水産土木協会 理事
 北海道土木施工管理技士会 理事
 全国建設業協会労働委員会 委員
 北海道経済連合会 常任理事
 北海道法人会連合会 理事
 十勝地方技能尊重運動推進協議会 会長
 帯広商工会議所 常任議員

令和元年度 「海の日」海事関係功労者 大臣表彰

国土交通省の令和元年度「海の日」海事関係功労者受賞者として道内関係者では港湾関係で藤建設㈱代表取締役社長の藤田幸洋氏が栄誉に輝きました。

藤田氏は多年にわたり港湾建設事業の振興に努め、斯界の発展に寄与した功績が高く評価されました。表彰式は、7月23日に国土交通省共用大会議室で執り行われました。



藤建設株式会社
代表取締役社長

藤田 幸洋 氏

生年月 昭和30年3月

略 歴

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 昭和52年4月 | 東亜建設株式会社 | 入社 |
| 昭和55年5月 | 藤建設株式会社 | 入社 |
| 昭和63年5月 | 藤建設株式会社 | 常務取締役 |
| 平成3年5月 | 藤建設株式会社 | 専務取締役 |
| 平成4年5月 | 藤建設株式会社 | 代表取締役 |
| 平成24年8月 | 藤建設株式会社 | 代表取締役社長 |

令和元年度 漁港漁場関係事業優良請負者 表彰受賞者

水産庁の令和元年度漁港漁場関係事業優良請負者表彰で、道内からは真壁建設(株) (本社：根室市) と萩原建設工業(株) (本社：帯広市) が水産庁長官表彰に輝きました。

両者の卓越した技術力と業績をたたえ、このほど表彰式が水産庁長官室で執り行われました。同表彰は、高い技術力と優れた施工管理で他の模範となる成果を残した請負者を顕彰することで、円滑な事業の推進につなげることを目的に実施している。

水産庁長官表彰



真壁建設(株)
山下 洋司 氏
代表取締役

会社概要

本社所在地	根室市
創業	昭和26年
設立	昭和28年
資本金	2,500万円



萩原建設工業(株)
萩原 一利 氏
代表取締役社長

会社概要

本社所在地	帯広市
創業	大正7年
設立	昭和23年
資本金	8,000万円

令和元年度 北海道開発局 優良工事等の表彰

北海道開発局は7月26日、札幌第1合同庁舎で令和元年度優良工事等局長表彰の表彰式を挙行了。平成30年度に完成した工事1511件中から局長表彰工事30件（29社1JV）が選定され、工事を施工した企業と、その工事に携わった技術者に後藤貞二開発局長が表彰状を手渡し、栄誉をたたえた。

港湾・空港・漁港部門における局長表彰は、①㈱森川組が施工した「函館港若松地区岸壁上部工その他工事」②真壁建設㈱が施工した「根室港（花咲地区）-5.5m岸壁（改良）工事」の2件（2社）が受賞しました。

開発建設部部長表彰は、札幌（大成・伊藤・菱中JV）、函館（東洋建設㈱）、小樽（近藤工業㈱）、室蘭（堀松・南JV、酒井建設㈱）、釧路（岩倉・渡辺JV、萩原・宮原組JV）、網走（西村組㈱）、稚内（藤建設㈱）が受賞しました。

— 港湾・空港・漁港部門における受賞工事 — 【北海道開発局長表彰】

○工事名：函館港若松地区岸壁上部工その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：㈱森川組

技術者：



佐々木 健吾 氏



〔表彰理由〕

本工事は、工程管理のフォローアップを常時行い、プレキャスト製品を活用するなど工程短縮に努め、週休2日を達成。ワイヤーソーイング工法で既設構造物を切断し、別ヤードにおいて破碎作業を行うことで騒音対策を図った。安全建設気象モバイルによりリアルタイムで気象海象情報を入手し、海上作業を安全に行った。

○工事名：根室港（花咲地区）
-5.5m岸壁（改良）工事

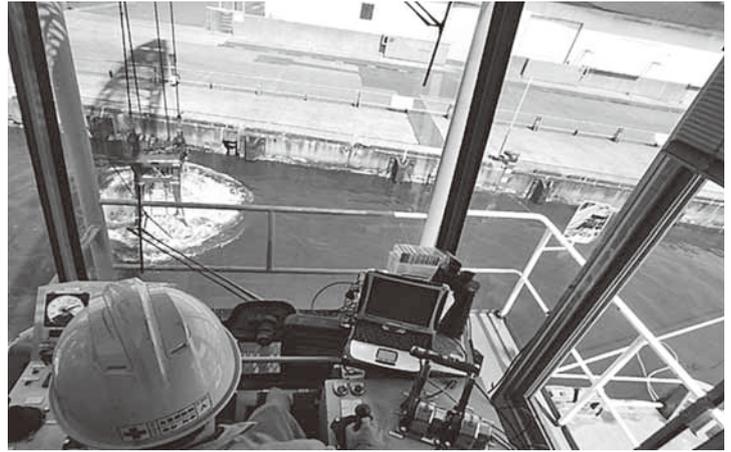
発注者：釧路開発建設部

施工者：真壁建設(株)

技術者：



中村 誠氏



〔表彰理由〕

屋根付き岸壁エプロン舗装の打替えでは、漁船の係船確保のほか水産上屋への搬入路を考慮した工程管理を実施。岸壁の前出し拡幅では、盛漁期の漁船との輻輳を避けるなど、地域の漁業活動に配慮しながら工事を進めた。安全対策にも万全を期し、無事故で工事を完成させ、他の模範となる成果を上げた。

【各開発建設部長表彰】

○工事名：新千歳空港誘導路アンダーパス外工事

発注者：札幌開発建設部

施工者：大成・伊藤・菱中特定JV

技術者：野井 潤生氏（大成建設）
千葉 貴久氏（伊藤組土建）
工藤 正朗氏（菱中建設）

○工事名：函館港若松地区岸壁ドルフィン部
その他工事

発注者：函館開発建設部

施工者：東洋建設(株)

技術者：佐藤 孝志氏

○工事名：古平漁港-3.5m（改良）その他工事

発注者：小樽開発建設部

施工者：近藤工業(株)

技術者：吉倉 利昌氏

○工事名：苫小牧港西港区-3m物揚場
B工区改良工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：堀松・南経常JV

技術者：犬飼圭太郎氏（堀松建設）
土田 幸貞氏（南組）

○工事名：苫小牧港西港区岸壁南-10m
地盤改良その他工事

発注者：室蘭開発建設部

施工者：酒井建設(株)

○工事名：根室港（花咲地区）外1港ケーソン
製作その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：岩倉・渡辺経常JV

技術者：三浦 洋一氏（岩倉建設）
堀内 弘氏（渡辺建設工業）

○工事名：厚岸漁港-5.5m岸壁改良その他工事

発注者：釧路開発建設部

施工者：萩原・宮原組経常JV

技術者：遠藤 暢氏（萩原建設）
羽田 貴広氏（宮原組）

○工事名：紋別港外1港-4m物揚場改良
その他工事

発注者：網走開発建設部

施工者：(株)西村組

技術者：米田 克幸氏

○工事名：宗谷港物揚場建設工事

発注者：稚内開発建設部

施工者：藤建設(株)

技術者：小坂 昌勝氏

令和元年度 北海道開発局 港湾空港関係功労者表彰

北海道開発局は7月19日、札幌第1合同庁舎で本年度の「港湾空港関係功労者表彰」及び「一般協力者の奉仕活動表彰」の表彰式を行い、魚住港湾空港部長が受賞者に表彰状を授与した。この表彰は、港湾空港整備事業の推進を目的として、港湾空港関係の業務等に関し、功労があった方々を対象に実施しています。

今年度の功労者表彰は、株式会社西村組（湧）代表取締役 西村幸浩氏が受賞しました。

また、海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰は、羽幌町立焼尻小学校が受賞しました。

魚住港湾空港部長は表彰状授与後の挨拶で、「港湾空港事業は地域産業や生活を支える重要なインフラ、本道は国策を担う重要な食料基地」であると述べ、受賞者のこれまでの功績に感謝するとともに今後においても、港湾空港整備事業への理解と協力を求めた。

推薦 北海道港湾空港建設協会
(一社) 日本起重技術協会北海道支部
全国浚渫業協会北海道支部



株式会社 西村組 代表取締役

西村 幸浩 氏

生年月 昭和38年 9月

略 歴

昭和62年 4月 株式会社 西村組 入社
平成 8年 4月 株式会社 西村組 取締役 副社長
平成14年 4月 株式会社 西村組 代表取締役
現在に至る

令和元年度 (公社)日本港湾協会会長賞表彰 港湾功労者賞

北海道港湾協会推薦（順不同）

永年にわたり、港湾の発展に尽くされた功績顕著な方々に贈られる港湾功労者賞の表彰が行われました。令和元年5月22日新潟市朱鷺メッセで開催された（公社）日本港湾協会の第92回定時総会に先立ち、北海道港湾協会の推薦により道内から7名の方が表彰されました。受賞されました皆様には、心からお慶び申し上げます。



宮部 秀一 氏

生年月 昭和32年 8月

(株)菅原組 常務執行役員

略 歴

昭和55年 北海道開発局
平成25年 室蘭開発建設部 次長
平成28年 (一社) 寒地港湾技術研究センター 企画部長
令和元年 (株)菅原組 常務執行役員
現在に至る



大野 元 氏

生年月 昭和32年12月

(一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部 副支部長

略 歴

昭和53年 北海道開発局
平成26年 小樽開発建設部 次長
平成28年 (一財) 港湾空港総合技術センター 北海道支部 副支部長
現在に至る



千葉 不二夫 氏

生年月 昭和32年 6月

勇建設(株) 技術顧問

略 歴

昭和51年 北海道開発局
平成29年 函館開発建設部 次長
平成30年 勇建設(株) 技術顧問
現在に至る



中村 篤 氏

生年月 昭和32年 8月

(株)高木組 技術顧問

略 歴

昭和51年 北海道開発局
平成28年 室蘭開発建設部 室蘭港湾事務所長
平成30年 (株)高木組 技術顧問
現在に至る



渥美 洋一 氏

生年月 昭和32年 5 月

(一社)寒地港湾技術研究センター
第一調査研究部長

略 歴

昭和59年 北海道開発局
平成30年 網走開発建設部 紋別港湾事務所長
平成29年 (一社)寒地港湾技術研究センター 第一調査研究部長
現在に至る



森 義和 氏

生年月 昭和32年10月

パブリックコンサルタント(株)
常務取締役

略 歴

昭和51年 北海道開発局
平成27年 室蘭開発建設部 浦河港湾事務所長
平成30年 パブリックコンサルタント(株) 常務取締役
現在に至る



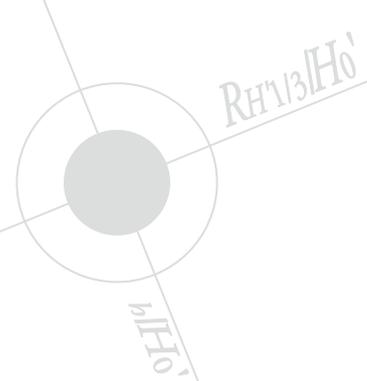
石川 洋一 氏

生年月 昭和33年 2 月

(一財)港湾空港総合技術センター
北海道支部 事業第一部 調査役

略 歴

昭和52年 運輸省第2港湾建設局
平成28年 函館開発建設部 江差港湾事務所長
平成30年 (一財)港湾空港総合技術センター 北海道支部事業第一部 調査役
現在に至る



令和元年度 (公社)日本港湾建設協会連合会 会長賞表彰港湾功労者賞

RH13/H0

6/H0'

北海道港湾空港建設協会から10名が受賞

経営の合理化、工費の適正化、技術の向上、作業の効率化、従業員の労務・厚生改善等で協会発展に尽くした功績を顕著として、令和元年5月8日東京都内の明治記念館で開催された日本港湾空港建設協会連合会第36回通常総会において、当協会から次の10氏が会長賞を受賞されました。受賞されました皆様には、心からお慶びを申し上げます。

代表者表彰



濱谷 美津男 氏
生年月 昭和36年9月
(株)濱谷建設 代表取締役社長

略歴

昭和60年4月 村角建設(株) 入社
昭和63年5月 (株)濱谷建設 入社
平成3年6月 同社 常務取締役
平成19年1月 同社 代表取締役副社長
平成24年12月 同社 代表取締役社長
現在に至る



堀松 一郎 氏
生年月 昭和43年3月
堀松建設工業(株) 代表取締役社長

略歴

平成4年3月 北見シグナル商事 入社
平成7年2月 堀松建設工業(株) 入社
平成8年5月 同社 取締役
平成12年5月 同社 常務取締役
平成16年5月 同社 代表取締役社長
現在に至る

従業員表彰 (順不同)



長崎 典彦 氏
生年月 昭和29年1月
萩原建設工業(株) 支店長

略歴

昭和49年4月 萩原建設工業(株) 入社
昭和60年5月 同社 現場代理人・監理技術者
平成20年7月 同社 釧路支店長
現在に至る



原田 仁 氏
生年月 昭和31年8月
(株)富士サルページ 常務取締役

略歴

昭和54年4月 (株)富士海洋土木 入社
平成12年4月 (株)富士サルページ 工事部長
平成18年7月 同社 取締役業務部長
平成23年7月 同社 常務取締役
現在に至る



湯澤 勝則 氏
生年月 昭和33年 9月
(株)西村組 部長兼所長

略 歴

昭和56年 4月 (株)西村組 入社
平成12年 4月 同社 工事課長
平成24年 4月 同社 工事部次長
平成28年 4月 同社 道外工事部長兼所長
現在に至る



辻ノ内 一司 氏
生年月 昭和33年 4月
渡辺建設工業(株) 取締役工事部長

略 歴

昭和56年 4月 東邦コンサルタント(株) 入社
平成元年 5月 渡辺建設工業(株) 入社
平成16年 2月 同社 取締役工事部長
現在に至る



山本 博章 氏
生年月 昭和34年 9月
勇建設(株) 工事部部长

略 歴

昭和57年 4月 勇建設(株) 入社
平成23年 4月 同社 工事部課長
平成28年 4月 同社 工事部次長
平成30年 4月 同社 工事部部长
現在に至る



伊藤 浩 氏
生年月 昭和35年 5月
岩倉建設(株) 副参事工事長

略 歴

平成 2年 6月 岩倉建設(株) 入社
平成 9年 7月 同社 技師
平成24年 2月 同社 副参事工事長
現在に至る



大釜 和彦 氏
生年月 昭和35年11月
藤建設(株) 執行役員

略 歴

昭和56年 4月 藤建設(株) 入社
平成 6年 4月 同社 事業課長
平成25年 4月 同社 海外事業部長兼
工務部副部長
平成26年 8月 同社 執行役員
現在に至る



松川 和宏 氏
生年月 昭和36年 5月
(株)中田組 執行役員利尻本店次長

略 歴

昭和59年 4月 (株)中田組 入社
平成 3年 7月 同社 主任技術者・現場代理人
平成14年 6月 同社 現場代理人
平成27年 4月 同社 利尻本店次長
平成29年 4月 同社 執行役員利尻本店次長
現在に至る

我が社の安全衛生管理

豊浦建設工業株式会社 土木部長 工藤 真一



1. はじめに



当社は創業者の金丸昭（かなまるあきら）氏のもと1962年設立、64年に現在の株式会社とし、豊浦町を中心に地域の土木インフラ整備、道路維持等を担ってきました。その後、2005年には現社長の金丸孝（かなまるたかし）氏にバトンタッチし現在に至っております。

創業時は地元豊浦町の工事や胆振地域での道内ゼネコンの下請として展開し、高度成長の波にも乗り、現在では官公庁の土木工事及び維持工事を主として事業を展開しております。当社の社訓として掲げている「無限の信用」「責任的行動」「自主的行動」「和を持った行動」は、創業以来会社を貫く基本姿勢として社員に徹底しており、仕事にプライドを持ち、地域社会から信頼される人間・企業であることが何より大事と教育しております。



2. 安全衛生基本方針



当社は、労働者の「健康」と「安全」の確保は企業の社会的責任であることを認識して、安全で快適な職場環境の形成を図ることを基本理念におき、当社で働く人々が安心できる、安心で衛生的な職場環境向上と整備に努め、労働災害防止を図りながら、社会からも信頼される企業を目指しております。

【令和元年 安全推進スローガン】

『危険を見つけてみんなで改善 意識高めて安全職場！』



3. 安全衛生管理計画



安全衛生方針を基に、今年度の安全衛生目標を下記の通り策定し、労働災害の未然防止を図っております。

1. 安全施工サイクルの完全実施
2. リスクアセスメント・作業手順書の作成・実施
3. 健康管理の徹底



4. 安全衛生管理活動



①現場会議

毎月初めの月曜日に各作業所を対象とした現場会議を実施しており、社長・役員・各作業所の担当者が集まり、担当者より現場の進捗状況と安全衛生管理活動の報告をし、現場での労働災害の防止及び安全衛生管理活動を社員一丸となって取り組んでおります。



「現場会議」実施状況

②安全衛管理体制

毎月1回、安全衛生委員会、災害防止協議会を開催し、安全衛生管理体制を確立させ、安全衛生活動を展開しております。

③安全衛生教育の充実

年1回、店社安全大会及び社員教育を実施しており、安全衛生教育の充実を図っております。協力会社に対しても随時、協力会社教育を実施しており、基本方針の周知、災害事例の周知、作業手順の周知を教育しております。

④安全衛生活動の強化

各作業所における安全衛生管理活動の強化を図るため、作業所における安全衛生管理計画書の作成、作業所入場時の危険予知活動の実施、新規入場者教育の実施を随時実施しております。また、作業所安全教育・訓練の実施、災害防止協議会の開催を工期内に毎月1回実施しており

ます。これらの安全衛生活動の実施に際して、リスクアセスメント危険予知活動表を作成し活用しております。

⑤安全衛生パトロール

安全衛生パトロールを工期内に毎月実施しております。また、取締役によるパトロールも実施しており、パトロールによる指摘、指導事項は災害防止協議会にて報告し、今後の安全衛生活動の強化に役立たせております。



安全パトロール状況

⑥交通安全

毎年、全道統一交通安全運動（旗の波）に参加しており、年に2回ほど当社の国道道路維持路線にて実施しております。また、社用車へドライブレコーダーの設置や、酒気帯び運転の撲滅やスピードダウンの励行を社員に呼びかけ、安全運転意識の向上に努めております。



旗の波実施状況

地元少年野球チームへの賛助など、様々な地域貢献活動を実施しております。また、昨年発生しました胆振東部地震の災害復旧へ、地元の建設業社として人員および機械の協力など、その他様々な活動に協力しております。



草刈の状況



港内の流木除去状況



6. むすびに



今後の課題としまして、人材不足や職員の高齢化など、様々な問題が発生してきますが、これらの問題をひとつひとつ解決・改善しながら、地元から必要とされ愛される企業を目指し、全社員一丸となって日々努力していきたいと考えております。



5. その他の活動



毎年6月に地元の自治体のイベントに、地域の一員として清掃活動を実施しております。また、毎年実施しておりますいぶり噴火湾協同組合主催の植樹祭への参加、

私の 趣味

『私の中国物語』

株式会社不動テトラ 森 信幸

私は、中国瀋陽市で3年間生活をしてからすっかり中国にハマリ、帰国後も数回中国を訪れています。今回の執筆にあたり、皆さんに紹介できるほどの趣味を持ち合わせていないため、中国生活を通じ多くの中国人と接した経験から少しでも中国に詳しくなっただけで私の中国物語を本誌で紹介させていただきます。

はじめに

私の中国物語は2003年5月、本局から突然やってきた1本の電話から始まりました。(本局)「森さん、中国の転勤話があるのですが行きませんか?」、(私)「広島ですか?何処の港を担当するのですか?」、(本局)「いいえ、整備局ではなくて本物の中国です。外務省の出向で場所は内陸の瀋陽と言う所です。従って港湾とは無関係になります。」、(私)「話は分かりましたが、色々相談しなければならぬので即答はできません。」、(本局)「分かります。よく検討して返事をください。」、(私)「分かりました。」当時私は開発土木研究所水産土木研究室に所属していたので、先ず、上司に相談しました(年度初めの忙しい時期、内心は、これからの研究が大変になるのでお断りしなさいと言われるのを期待して)、私の予想に反して上司は、「それは良いチャンスなので是非引受けなさい。私もザンビアに出向したが海外を経験すると格段に見識が広がりますよ。」(今では的確なアドバイス)、そこで、妻に電話をして(私)「外務省の出向で中国瀋陽の転勤話があるけど

……。」、(妻)「その瀋陽までは何時間かかるの?」、(私)「新千歳空港から直行便(当時)で3時間程度。」、(妻)「今も単身赴任生活(妻が室蘭で仕事)なので稚内や釧路の転勤よりはましじゃない?」(今思うと何と安易な考え。)、また、当時は私も妻も両親は至って元気だったため、断る理由がまったく見当らず転勤を引き受ける一報を本局に入れました。間もなくして、本局に異動したのですが、港湾の業務を任せられる訳でも無く、もっぱら中国語の勉強に明け暮れる毎日が続きました。しかし、中学から大学まで約10年間英語を勉強しても全く英会話が出来ない私が、たかが1、2ヶ月中国語を勉強したところでマスター出来るはずもなく私のモチベーションは下がる一方で、ストレスが溜まる日々を過ごしていました。

外務省相模大野研修所のエピソード

そんなある日、外務省から研修依頼があり、相模原市にある外務省研修所で9月から3ヶ月間の外務研修が始まりました。研修には、全国の各省庁から参集した精鋭官僚約200名が新しく外交官になるため語学や外務に関する研修を缶詰状態で行います。研修が進むにつれて自然と気の合う者同士のグループが出来てきます。私は、テニスサークル(当時は研修所内にテニスコート有り)の方と親しくなりました。仲間には刑事ドラマでしか見たことがなかった本物の美人検事(法務省)Aさん、北朝鮮の工作船と交戦し隣人が銃撃された経験を持つ海上保安部

のB氏（国土交通省）、オウム真理教第7サティアンの家宅捜査時カナリヤを持ち込んだ警視庁のC氏、自衛隊のエピソード等を面白く話してくれるD氏（防衛省）、麻薬や入管時の審査について詳しく話してくれる入国管理局のE氏（法務省）等々、皆さん話題が豊富で楽しい仲間が集結しました。休日の外出は基本的に自由（外泊は届出が必要）ですが、最初の頃は、語学の宿題や予習・復習でそのような余裕は有りませんでした。しかし、1ヶ月も過ぎると少し余裕ができて、仲間同士で休日に横浜の繁華街で遊ぶ計画が持ち上がりました。（勿論、この時だけは女性のAさん抜きで）話が進み参加者を募って居たところ、なんと警視庁のC氏も参加すると言うことなのでお互い顔を見合わせ、私が冗談交じりに「遊んだ後に逮捕なんてことは無いですよ」と聞くと、C氏は「昔、警察で不祥事が相次いだため規制を厳しくしたら不祥事が更に多くなったので最近規制が少し緩くなりました。ただし遊ぶ場所は私に任せてください。」（飲み会の席だったので真意の程は定かでないが）かくして、警視庁を筆頭に防衛省、海上保安部、入国管理局と国家公務員の中でも超お堅いメンバー（個人はととも砕けているのですが）と横浜の繁華街に繰り出したのでした。紙面の都合もありますので、続きは個別にお話しをします。出来の悪い研修生でしたが無事に研修も終え中国赴任の準備をしていた3月に美しすぎる女性検事Aさんから電話があり「4月にはみんなそれぞれの国に出国して3年間は会えなくなるので靖国神社で花見をしながら壮行会をしませんか？」との提案があったので、仲間が一番フットワークの良い防衛省のD氏に花見の場所取りをお願いしました。（当時、長老の私が仕切り役）当日は快晴で絶好の花見日和、D氏が朝早くから場所取りをしてくれたおかげで花見は大いに盛り上がったので、「朝早くからの場所取り、ありがとうございます」と労いの言葉をかけると、

D氏は笑顔で「生まれて初めて場所取りの経験をしました。」、私「……？職場で場所取りするような事はないの？」、D氏「職場に戻ると2千人の部下がこのような仕事してくれるので……」（確かD氏の階級は1佐）。研修期間中みんな楽しくフレンドリーな付き合いをしてくれましたが、D氏に限らずここに居る仲間はみんな職場に戻るとすごい肩書きの持ち主なのだなぁ。今回の外務研修で1番の成果は、この研修が無ければ絶対に会うことも無かった、このような素晴らしい仲間と巡り会えた事でした。

中国瀋陽生活でのエピソード

4月に入って人口820万人の瀋陽市を拠点に外交官として3年間勤務することになるのですが、ここでは、中国生活を通じて日本と中国の考え方や習慣の違い等のエピソードを紹介いたします。

エピソード1

当時私は、在瀋陽日本国総領事館の広報文化領事だったので、仕事柄遼寧省や瀋陽市人民政府の文化局や外事弁公室との付き合いが多く、良く食事に接待されました。何時ものように瀋陽の政府関係者から招待を受けた某中華レストランが、1ヶ月ほど前に食器を良く洗わないで食事を提供すると新聞報道されたレストランだとわかりました。しかし、このレストランは、衛生的でないと報道されたにも拘わらず1ヶ月もすると以前と変わらず繁盛しており、日本ではあり得ない光景を目にした私は、お酒の勢いもあって政府関係者に「確かこのレストランは食器を良く洗わないで不衛生だと報道されたレストランですよ？」と問うと政府関係者は悪びれた様子もなく笑顔で「確かにそのような報道がされましたよ」、私は少しむっとして「そのようなレストランに何故招待するのですか？」と訪ねました。すると政府関係者は、「森領事、今厨房に行ってみてく

るとわかります。今回の報道で厨房は食器の絵柄が剥げるくらい熱心に食器を洗っていると思いますよ。現時点で、ここのレストランは瀋陽市内で最も衛生的なレストランなのです。だから、お客も入っているでしょ。」確かに、政府関係者の話にも一理ありますが日本人には全く思いつかない発想です。2011年7月に中国浙江省温州市で発生した高速鉄道の追突・脱線事故を報道していた日本人キャスターが「このような大事故を起こしたにも係わらず大勢の中国人がこの鉄道を利用しています。信じられません。」と報道していた事を思い出します。中国人的には大事故の後なので特に安全に留意して運行するため、最も安心・安全な乗り物なので利用しているでしょう。

エピソード2

衛生が行き届いていない中国では、水道の水はそのまま飲まない、魚貝類等、生ものは信頼できる日本料理店か五つ星ホテルのレストランで食べると決めて食中毒には特に注意を払って生活していました。しかし、妻と瀋陽市内の大型植物園を見物していると園内のレストランで大型水槽に入った沢山の毛ガニを見て、私は思わず「うわぁ、こんな内陸でも新鮮な毛ガニが食べられるなんて。明日、領事館のみんなに自慢しよう！」と水槽の中の一番大きく元気な毛ガニを指さし、この毛ガニを蒸し焼きにするように頼みました。店員はその毛ガニを水槽から捕りだしOKサインを出したので妻とレストランに入り料理を待っていると、(中国のレストランは、まず食材選びと料理法を指示して別室のレストランで食事をするのが一般的)料理が食卓に並び私の頼んだ蒸し毛ガニも皿に乗って出てきました。見た目、私が頼んだ時より一回り小さくなっていましたが、その時は蒸したので小さくなったと思込み食べました。半蒸し状態の毛ガニは思ったほど美味しくなく

期待外れでしたが、内陸の瀋陽で新鮮な毛ガニを食べたと言うことに満足して帰路に着きました。その夜、40℃の高熱と激しい下痢・腹痛に襲われ正に食中毒症状そのものでした。腹痛に堪えながら、新鮮な毛ガニを食べたはずなのにと思いついてみると、カニは、蒸そうが焼こうが茹でようが変色はするけど小さくなることは無い事に気づき、あの時、店員は、生きの悪い或いはすでに死んでいる別の毛ガニを提供したのではないかと確認し、生きの良い毛ガニを水槽から挙げるところまでは見ていたが、その毛ガニを料理している所までは確認していない。迂闊だったと思って後の祭りでも、一晩中、食中毒に耐える最悪の時間を過ごしました。幸いなことに、この料理は私一人が食べ、妻は食べなかった事が唯一の救いでした。

エピソード3

翌朝、領事館の中国人スタッフを連れて中国医科大学(日本人は病気になると皆この大学を利用)に行き診察の結果、やはり食中毒で1週間の入院が必要との診断で即入院の手続きをしたのですが、病院からは、手続き上、取りあえずいくらでも良いからお金を払って欲しいというので、財布にあった全額約2万円を支払い入院することになりました。一応個室の入院部屋は日本のように綺麗な部屋では無く、コンクリート剥き出しで所々にクラックが見える部屋でした。入院中は何もすることが無く暇を持て余す中、唯一私の楽しみは、毎朝若い美人の看護師さんがやってきて日本では見たことがないような爽やかな笑顔で、ベッドメイクと点滴(日本の有名な薬品メーカー名だったので一応は安心)をしてくれることでした。ところが入院から4日目の朝、いつものように若い看護師さんが来るのを楽しみに待っていたのですが、一向に訪れる様子が無いので昼頃にナースステーションに行って事情を聞いたところ毎

朝渡している明細書を見るように言われたので確認したら、最初に支払った2万円が毎朝引去りされ、4日目にはなんと赤字になっているではないか。私は、日本の病院のように退院するときに残金を支払えば良いと思っていたので明細書を気にしていませんでした。「中国では、お金が無くなるとたとえ病人でも何も治療をしてくれないのか。」早速、妻に電話してお金を持ってきてもらい入金すると、昨日までと変わらない若い看護師さんの治療が再開されました。と言うことは、この美人看護師さんの爽やかな笑顔は、私に対してでは無く私が支払うお金に対しての笑顔だったのか（当然の事ですが、チョット残念）。確かに、ホテルの宿泊では、チェックイン時に倍位の料金を前払いし、チェックアウト時に残金を返金するシステムになっていますが、まさか病院まで徹底しているとは、中国は何とドライで分かりやすい国なのだろう。某日本の経済学者が「中国ほど資本主義？（お金至上主義）に合っている国は無い。」と語っている言葉を思い出しました。

エピソード4

領事館では、広報文化班を担当していましたが、経済班の仕事も手伝っていました。当時経済班では、中国東部の貧しい地域に学校や病院等公共施設の建設や教材・機材提供などを日本が資金協力していました。（中国の経済発展に伴い今はこの制度は無くなりましたが）資金協力の有無を判定するため黒竜江省の某地域を視察した時、現地役人から、この地域は犬肉が有名ですが、その中でも特に美味しい犬肉料理店（30人程度で満席）で犬鍋の提供を受けることになりました。接待で提供された料理やお酒は全ていただくのが私の主義（単に意地汚いだけ）なのですが、流石に初めての犬肉料理と隣がレンガに囲われた犬小屋で犬が悲しそうに吠えているのを聞きながらの会食、自然と箸が遠のいていました。

それを見ていた役人は「この犬肉は食用の犬でペットでは無いので美味しいから安心して食べてください。」と勧められたので内心は、「犬を食べるなんて中国人は何て残酷なんだ、良くこのような環境で食事が出来るなあ。」と思いながらも、ここは日本の外交官、接待されている身なので「とても美味しゅうございます。」と社交辞令を述べながら、あくだらけの犬肉を白酒（中国東部の度数が高いお酒）で流し込むようにいただきました。当然大量の白酒を飲んだため、酔いが回ってしまったのは言うまでもありませんが。（犬肉を食べてからと言うもの何故か犬が私から遠ざかるようになったと感じるのは気のせいかな？）帰国後、家族と羊ヶ丘公園で、羊を見ながらジンギスカンを美味しく食べている自分を見て犬と羊の違いは有るもののこの光景は黒竜江省で食べた犬鍋と何ら変わらないことに気づき、きっと黒竜江省の役人も、私に最高の料理をご馳走したかったに違いない。自分が経験してないだけで相手を非難することは良くないよなあ。黒竜江省の役人さん、ごめんなさい。

おわりに

いかがだったでしょうか？日本人も中国人も同じ東洋人、言葉をお話さない限り外見では区別が付きませんが、今回の投稿のように「日本人とはかなり考え方が異なるなあ。」と感じられた方も多いと思います。私は中国生活をして中国人とうまく付き合っていくためにはこのような違いを認め合い相互理解していくことが重要だと感じています。なお、今回は高尚な会報「北のみなと」の執筆と言うことも有り、昼の部に限定した投稿になってしまいましたが、3年間の中国生活は昼に限らず夜のエピソードも同じ位経験しました。今後はもっと砕けた雑誌等で投稿の機会があれば「私の中国物語」（夜の部）をご紹介します。

令和元年度 岩内港大規模地震・津波 総合防災訓練が開催される

令和元年7月27日(土)午前10時から、「地震・津波による災害時の港湾機能の早期回復に備え、関係機関などとの連携強化及び防災意識の高揚を図ること」を目的に、北海道開発局、小樽開発建設部及び岩内町の主催による総合防災訓練が岩内港新港東埠頭岸壁(-7.5m)で開催された。当日は、直前まで激しく降っていた雨が上がり、本番は強風により油回収訓練など一部訓練が中止されたが、それ以外は順調に進行された。本訓練には、第一管区海上保安本部をはじめ小樽海上保安部、岩内警察署、岩内・寿都地方消防組合、陸上自衛隊、小樽建設協会、日本埋立浚渫協会北海道支部、北海道港湾空港建設協会、港湾技術コンサルタンツ協会及び小樽港湾事務所工事安全連絡協議会等の17機関から約100人が参加した。

はじめに、渡邊政義小樽開発建設部長が訓練開始を宣言し、岩内町の上岡雄司町長が「連携強化と防災意識の高揚を図り、防災管理体制を確実なものに」と述べ、国土交通省の堀田治大臣官房技術参事官が「各機関の取り組みを確認し、防災力向上を」と挨拶した。

訓練は、北海道南西沖を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生し、岩内町で震度5強を観測、直後に大津

波警報が発表され最大4.7mの津波が来襲、その後津波注意報に切り替わり、最後に注意報が解除されるという想定で訓練が行われた。

訓練内容は、①避難、②緊急支援物資輸送、③被災状況調査、④漂流者捜索・救助について 参加者は、順次連携を取りながら所定の訓練を円滑に行った。なお、広域海上点検、油拡散及び油回収訓練は強風の影響で中止された。

訓練終了後、魚住聡北海道開発局港湾空港部長が「関係者が一堂に集まり訓練できたのは意義がある」と講評した。

(写真提供は北海道開発局 小樽開発建設部)



緊急支援物資輸送訓練



被災状況調査訓練



漂流者捜索・救助訓練



開会宣言をする渡邊政義小樽開発建設部長



訓練終了後講評する
魚住聡港湾空港部長



訓練閉会宣言をする
阿部勝小樽開発建設部長

大型客船寄港

小樽港、今年最初の豪華客船 ウエステルダム初寄港

今年最初となるオランダ船籍の豪華クルーズ客船のウエステルダム（82,862t）が、4月24日（水）小樽港に寄港した。

同船は米国やカナダなどの乗客約1,700人を乗せ、14日に横浜港を出港し大阪や金沢、ロシアのウラジオストクなどを経て24日午前6時30分に小樽港（勝納ふ頭）に接岸した。同船の小樽寄港は初めて。

小樽港クルーズ推進協議会が式典を主催。小樽市や観光関係者など約30人が参加した。迫俊哉市長は「小樽は道内でも古くからの歴史がある街。ウエステルダムのま

たの寄港をお待ちしています」と挨拶。サム・ホーキンス船長は「小樽港はとても美しい港。温かい歓迎に感謝する」と応え、記念品の交換を行った。

式典後、参加者は船内の操舵室やレストラン、カジノなどを見学。「まるで豪華ホテルのようだ」と感想を述べていた。

乗客の多くは船を降り、小樽市内や近郊の観光を楽しんだ。同船は24日夕、次の寄港地の函館に向け出港した。

写真提供：北海道開発局 小樽開発建設部
（記事は北海道新聞から抜粋しました）



ウエステルダムの全景



船内の様子



勝納ふ頭の接岸状況

室蘭港に本年度最後となる大型客船「オーシャン・ドリーム」が寄港

室蘭港に寄港する本年度最後の大型客船「オーシャン・ドリーム」(35,265ト)が8月19日午前、中央ふ頭旅客船バースに接岸した。

船は非政府組織(NGO)「ピースボート」が企画する船旅。今回は20日間の日本一周クルーズの一環で、4日に大阪港を出港し九州、韓国(釜山)、ロシア(ウラジオストック)、小樽港などを巡り寄港した。

歓迎セレモニーでは、青山剛室蘭市長がカルロス・ピネーダ船長らスタッフを歓迎。式典では「鉄の町」で知られる室蘭のすばらしい景観を楽しんでほしいと挨拶を

した。乗客1,115名は大半が日本人。下船し、登別や洞爺湖温泉、地球岬など室蘭市内を巡るツアーを楽しんだ。また、夕方からは同船の要請で乗船した、地元グループのイングリッシュナイトと室蘭マリン少年少女合唱団の約60名と、船内での演奏会や合唱団との共演で交流は盛り上がった。

船は同日午後11時ごろ、室蘭港を出港。宮城県石巻港を経て、23日に最終地の神戸港に到着する予定。

(写真提供は北海道開発局 室蘭開発建設部)



接岸中のオーシャン・ドリーム



入港時の歓迎の様子



接岸したオーシャン・ドリームと歓迎の様子

函館港若松地区にクルーズ船初寄港 ～まちなかにクルーズ船がやってきた!!～

函館開発建設部は、平成28年8月に閣議決定した「未来への投資を実現する経済対策」において掲げられた大型クルーズ船の受入環境改善を目的とし、若松地区クルーズ船岸壁の整備を平成29年11月から進めています。

平成30年10月に延長360m（11万トン級クルーズ船対応）のうち225mが完成し、4万トン級までのクルーズ船の寄港が可能となり、平成31年4月16日、待望の第1船「アザマラ・クエスト（30,277トン）」が寄港しました。

昨年までは、主要観光地である「まちなか」から約6.5km離れた貨物岸壁に係留していたため、バスやタクシーでの移動に15分程度かかっていましたが、若松ふ頭に係留することで「まちなか」へ徒歩で向かうことが可能となりました。

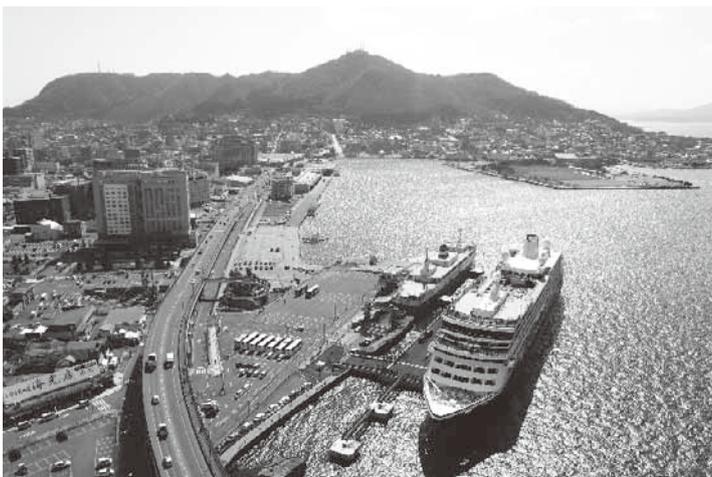
第1船の寄港当日は、岸壁の目の前にある函館朝市では、横断幕やフラッグを掲げて歓迎し、各店舗からは「立ち寄る人が増えた、函館駅前の活性化につながってほしい」と期待の声が上がっていました。

また、クルーズ船岸壁からは、函館山を望むことができ、乗船客からは「船上から見える函館の景色が素晴らしかった」という声が聞かれました。

函館市は、第1船の寄港に合わせた歓迎セレモニーを開催して、船長へ花束と記念品を贈呈し、ミス函館との記念撮影も行われました。

本年度、函館港では52隻のクルーズ船の入港が予定されており、そのうち19隻が「まちなか（若松岸壁）」にやってきます。

（写真提供は北海道開発局 函館開発建設部）



アザマラ・クエスト寄港状況



函館朝市からの眺望



朝市 横断幕設置状況



歓迎セレモニー 記念撮影

各港で舟漕ぎ大会、 ボートレース開催

釧路港舟漕ぎ大会

くしろ港まつりに合わせ、第15回釧路舟漕ぎ大会（同実行委員会主催）が8月3日釧路川の幣舞橋上流で開かれ、一般の部65チームと女性の部21チームが出場し、熱戦を繰り広げた。

一般の部では「北大のカヌークラブ・真打」が優勝、女性の部は、「ち～むまんもす」が制した。

同大会ではそれぞれの舟に8人の漕ぎ手が乗り込み、往復約200mのコースでタイムを競った。晴天と気温にも恵まれた会場は、選手、見物客の熱気に包まれた。選手たちは兩岸から「頑張れ!」「負けるな!」などの声援を受け、懸命にゴールを目指してオールを漕いだ。

一般の部で優勝した「北大カヌークラブ・真打」は若い力を爆発させ、記録は1分51秒99。同チームリーダーは、「周りは気にせず、ただ目の前の1パドル1パドルを必死に漕いだ。日々の練習の積み重ねが結果につながった」と日焼けした顔をほころばせた。

女性の部を制した「ち～むまんもす」の記録は2分30秒35。同チームキャプテンは、「うちは舟漕ぎ大会と長くつアイスホッケーに懸けてきた。賞金は TENT やユニホームの購入のほか、打ち上げにも使いたい」と満面の笑顔で話していた。

（写真提供は北海道開発局 釧路開発建設部）



開会式の様子



スタートラインに並ぶ参加チーム



懸命に漕ぐ女性の部のチーム



懸命に最後の追い込みをする各チーム

第11回 苫小牧港はすかっぱボートレース

第11回苫小牧港はすかっぱボートレース（実行委員長・宮崎英樹苫小牧港建設協会会長）が8月3日（土）苫小牧港西港区北ふ頭-5.5m岸壁前で開催された。

会場は、朝から晴天で気温も苫小牧としては珍しくらい上昇するなか、民間企業、官公庁合わせて13チームが参加して行われた。

はすかっぱボートレースは5人一組でボートを漕ぎ、予選は130mのタイムレース、決勝は、予選結果を基にトーナメントを組み、220mを2チームが競い合う勝ち抜き方式で行われた。息の合ったチームや操船に苦しむチーム

など、さまざまであったが選手たちはみんな必死でオールを漕ぎ、観客からの多くの声援や笑い声につつまれるなか、優勝したのは「苫小牧清掃社〜ず」でした。

ボートレース背後地のキラキラ公園では、第21回みなとフェスティバル（苫小牧港建設会社連絡協議会主催）も開催され焼きそば、焼き鳥、生ビールなどの模擬店が並び賑わいをみせていた。また、室蘭開発建設部苫小牧港湾事務所の、港湾業務艇「はやぶさ」による苫小牧港みなと見学会も実施されていた。

（写真提供は北海道開発局 室蘭開発建設部）



はすかっぱボートレーストーナメント



ゴール前必死に漕ぐ両チーム



奥のチームが僅差で勝利



みなとフェスティバルの賑わい風景

函館ペリーボート競漕

函館港まつり協賛イベントの「函館ペリーボート競漕」が7月28日（日）、函館港の若松南埠頭前で開かれた。幕末にペリー艦隊が箱館に入港した際、箱館奉行が8人乗りの小舟で艦隊に向かった史実に由来するレースで、2009年に開港150周年の記念行事として開催されて以来、今回で11回目となる。

今年は過去最高と並ぶ60チームが出場し真夏の日差しの中、熱戦が繰り広げられた。競技はトーナメント方式で行われ一般の部に49チーム、女子の部に11チームが参加した。ボートは1チーム8人編成で、漕ぎ手

6人が左右に分かれ、先頭にドラの叩き手、後方にはかじ取り役が乗り込み、合図とともに一齐にスタートが切られる。コースは浮標を目印に折り返す往復150mコースとなっており、1レースに2～3隻ずつ出場しタイムで競われる。

大会には、地元の当協会の会員企業も多く参加し、地元強豪チームと熱戦が繰り広げられ岸壁から大きな歓声が上がっていた。

(写真提供は北海道開発局 函館開発建設部)



開会式の様子



摩周丸を横にスタート



ガンバレ～ もうすぐゴール

第8回むろらん港鉄人舟漕ぎ大会

むろらん港鉄人舟漕ぎ大会は、室蘭港開港140周年を一つの契機として、今まで以上に「鉄のまち室蘭」・「港まち室蘭」を室蘭市内外の方々に親しみと関心を深めてもらうことを目的とした、市民手作りのボートレースだ。

第8回の大会は令和元年9月8日、スワンフェスタ2019に合わせて室蘭港中央ふ頭旅客船バースで、好天に恵まれ大勢の見物客の声援を受けながら行われた。出場チームは胆振管内の事業所や官公庁などからに加え森町役場野球部や地元の高校生も参加、36チームと過去最高のチーム数となった。

競技は陸上自衛隊幌別駐屯地の隊員による「舟漕ぎま〜す尾」が1分52秒41で4年ぶり3回目の優勝を果たした。

ボートは全長7m、幅1.7mの舵なしをオールで競漕す

るが、こぎ手6名の息が揃わないと真っ直ぐには進まない。

レースは150m（往路90m、復路60m）のコースで、3隻1組の予選を行い、タイム上位9チームが準決勝に進出。準決勝は3隻ずつ出場して1位チームが決勝に勝ち進んだ。決勝は自衛隊幌別駐屯地、ネクスコ・メンテナンス北海道事務所、千歳・陸自第7師団戦車隊のチームが出場し、折り返し地点のターンを上手に決めた幌別駐屯地が優勝した。

優勝賞金10万円を手にした「舟漕ぎま〜す」尾船長の本山憲一さんは、顔をほころばせながら優勝の挨拶をしていた。

（写真提供は北海道開発局 室蘭開発建設部）



池野実行委員長の開会挨拶



一番奥が室蘭開建のチーム



会場はとても賑わっていた



みなとづくり女性ネットワーク室蘭の出店

みなと南極まつり・稚内副港ボートレース2019

稚内地元愛育成協議会など主催の「みなと南極まつり・稚内副港ボートレース2019」が8月4日（日）に稚内第1副港で職場の仲間、各学校のPTA、友人同士、女性6チームを含む昨年より多い28チームが参加して開催された。

当日は約3,000人の来場者があり、好天にも恵まれ夏日の中、絶好のコンディションのもと、「予選2回のベストタイム上位9チーム」がセミファイナルに進出した。

レースは、観衆の声援を受けて激戦を制してセミファイナルで勝ち上がってきた「BVC」、「team Daishin（チーム・ダイシン）」、「24's（ツッシーズ）」の3チームによる決勝が行われた結果、「24's」が見事に3度目の優勝を果たし、賞金15万円を手にした。

その他、健闘賞、特別賞、仮装賞、女性賞、ブービー賞の各賞が受賞チームに贈られた。

（写真提供は北海道開発局 稚内開発建設部）



ボートレースの様子

◎業界だより◎

◎会員代表者の交代

藤建設株式会社 代表取締役社長 藤田 隆明
 菱中建設株式会社 代表取締役社長 執行役員 山崎 啓二

◎広報委員会だより◎

令和元年9月現在の広報委員会は次表のとおりです。

委員長	小野寺 勇	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
(部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
(副部会長)	大前 豊	五洋建設(株)
	石島 隆司	近藤工業(株)
	上野 強	釧石工業(株)
	小玉 茂義	東亜建設工業(株)
	高田 稔年	あおみ建設(株)
	千葉 不二夫	勇建設(株)
	宮部 秀一	(株)菅原組
	森 信幸	(株)不動テトラ
	渡部 優	菱中建設(株)

※広報委員会からのお知らせ

会報「北のみなと」の編集・刊行基準第5条(10) 当協会会員からの寄稿記事

- ア 新造船(機械・装置含む)の紹介
- イ 注目される工事の着工、完成施設の紹介
- ウ 工事現場の紹介
- エ 各地域の技術研究会・イメージアップ推進事業などの紹介をおまちしております。

北のみなと

北のみなと



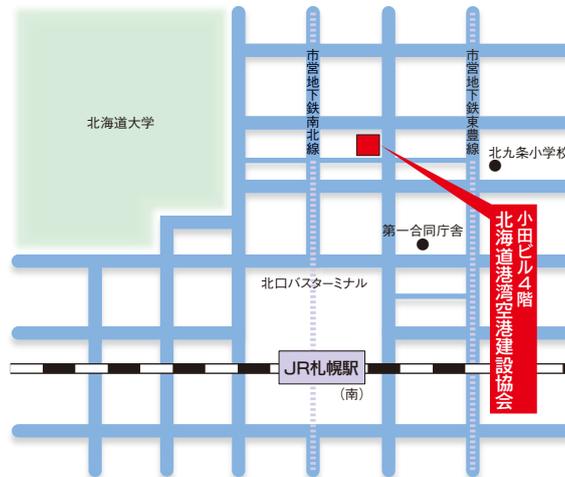
福島漁港「浦和地区」



福島漁港「白符地区」

〔写真提供：北海道開発局 函館開発建設部〕

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.98

発行年月 令和元年9月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 東 志郎
 印刷 (株)須田製版